

■日時 令和元年8月15日(木) ■天候 曇り 日本ウェルネス高校・通対 クラーク記念国際高校・千葉・通
 ■球場 明治神宮野球場 第2試合 3回戦 ■試合時間 1時間34分 ■備考 5回コールド
 ■審判 球審:清水 塁審:渡邊 竹本 小松

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5									計	安	失
クラーク千葉	千葉	1	0	1	0	0									2	6	3
日本ウェルネス	東京2	2	1	1	8	×									12	8	0

ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5						
1	遊	宮本大新	3	1	1	0	中安	左飛		一邪							
2	投中	銀屋拓真	2	1	1	0	四球		二安	二ゴ							
3	中三	橋本裕輝	2	0	0	0	死球		三振		三振						
4	一	原田大地	3	0	2	1	左安		左安		三振						
5	三投	米倉希海	3	0	0	0	二飛		二飛		三振						
6	捕	豊田壱成	2	0	1	1	三振		右安								
7	左	工藤優輝	2	0	0	0	投ゴ		三振								
8	右	渡辺統	2	0	0	0		三振		一ゴ							
9	二	中西祐太	2	0	1	0		三振		遊安							
合計			21	2	6	2	残塁:6 併殺:0										
備考																	

■バッテリー

投手
銀屋拓真
米倉希海

捕手
豊田壱成

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
銀屋拓真	2	12	2	1	3	2
米倉希海	2	18	6	3	5	2

ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	4	5					ポジション	
1		津澤拓実	3	2	2	2	四球	遊飛		右3	左安						1	遊
2		廣田巧	2	1	0	0	捕犠	四球		一失	三振						2	二右
3		築地幸汰	4	1	2	2	左2	捕飛		左安	二飛						3	捕
4		稲葉亘輝	3	2	2	1	一ゴ		右本	二安							4	右投
5	選手交代は右側を参照	竹中颯野	1	1	0	0	四球		三振	四球							5	一
6		富山義士	1	1	0	0	三振		四球	死球							6	中
7		小松拓毅	3	2	1	0		三失	三安	三失							7	投二
8		春日彪雅	2	1	0	0		中飛	左飛	死球							8	左
8		長澤佳樹	0	0	0	0											8	
9		東龍	2	1	1	2		左2	三振	死球							9	三
合計			21	12	8	7	残塁:6 併殺:0											
備考																		

■バッテリー

投手
小松拓毅
稲葉亘輝
津澤拓実
竹中颯野
稲葉亘輝

捕手
築地幸汰
東龍
築地幸汰

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
小松拓毅	0 0/3	2	1	0	1	1
稲葉亘輝	0 0/3	2	1	0	1	0
津澤拓実	1	3	0	1	0	0
竹中颯野	2	9	3	4	0	1
稲葉亘輝	2	7	1	3	0	0

■戦評

神宮球場で行われた準々決勝第2試合は息詰まる投手戦となった2回戦を制した日本ウェルネス高校・通信制とこの日の朝同球場にて行われた特別継続試合で5点差をひっくり返し勢いに乗るクラーク記念国際高校・千葉・通信制の対戦となった。日本ウェルネスは小松クラーク記念国際・千葉は特別継続試合に続いて銀屋が先発したが両投手とも不安定な立ち上がり。初回先攻のクラーク記念国際・千葉は先頭の宮本が中前打で出塁。続く銀屋にストレートの四球を与えたところで日本ウェルネスは2番手稲葉にスイッチするが3番橋本に死球で満塁。4番原田の左前適時打で1点先制すると日本ウェルネスは早くもエース津澤を投入して後続を打ち取る。その裏日本ウェルネスは先頭津澤が四球で出塁しワイルドピッチで二進後犠打で三進。3番築地の適時二塁打で生還しすぐさま同点に追いつく。なおも連続ワイルドピッチで築地も生還し逆転に成功する。2回裏には敵失の走者を9番東の左翼越え適時二塁打で返し3-1とリードを広げる。3回表クラーク記念国際・千葉は前の回から登板した日本ウェルネス4番手竹中から3本の安打を集中し1点を返す。その裏日本ウェルネスはこの回から登板したクラーク記念国際・千葉2番手米倉から4番稲葉が右翼越え本塁打を打ち1点を追加する。4回裏には4本の長短打と四つの四死球に敵失を絡め打者12人で8点を奪う猛攻を見る。4回表から再び登板した稲葉がクラーク記念国際・千葉の反撃を無得点に抑え5回コールド12-2で日本ウェルネスが準決勝に駒を進めた。敗れたクラーク記念国際・千葉は初戦で両チーム合わせて30得点の乱打戦を制し2回戦は2日間に渡る激闘を制して臨んだ3回戦であったがゲーム途中まで接戦を演じたものの疲れからか中盤の大量失点が最後まで響いてしまった。